** 2018年2月 第8版 改訂

* 2013年5月 第7版 改訂 <貯法>

容 器:気密容器

化するおそれがある。

酸剤 本 薬 局 方

炭酸水素ナトリウム

販売名:炭酸水素ナトリウム「コザカイ・M」

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

Sodium Bicarbonate

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施 していない。

承認番号

薬価収載

販売開始

再評価結果

日本標準商品分類番号 872344

16000AMZ04480000

1950.10

1949. 8

1980. 3

種類\頻度	頻度不明
代謝異常 ^{注)}	アルカローシス、ナトリウム蓄積による浮腫等
消化器	胃部膨満、胃酸の二次的分泌(リバウンド現象)

注)これらの症状があらわれた場合には、減量又は投与を中止す るなど適切な処置を行うこと

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意 すること。

【薬効薬理】

制酸作用:

- 1) 本品 1g は制酸性試験(Fuchs 変法)において瞬時に pH を上昇し、 0.1N 塩酸約 120mL を中和する。また、胃液の pH を上昇させ ペプシンを失活させる。なお、CO2発生により、胃粘膜を刺激 して二次的胃液分泌を促進する。
- 2) 本剤は吸収された後、主として重炭酸イオン(HCO₃-)として 作用し血液・体液の pH を上昇させる。過量投与によりアルカ ローシスをきたすことがある。

尿酸排泄作用:

本剤は尿の pH 上昇作用により、尿酸溶解度が高まり、尿酸の排 泄が促進され、尿路結石を予防する。

粘液溶解作用:

本剤は粘液のアルカリ化により粘液溶解作用を現す。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名:炭酸水素ナトリウム、重曹、重炭酸ナトリウム (Sodium Bicarbonate)

分子式:NaHCO3 分子量:84.01

性 状:白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、特異な塩 味がある。水にやや溶けやすく、エタノール (95) 又はジ エチルエーテルにほとんど溶けない。湿った空気中で徐々 に分解する。

【包装】

500g、5kg (結晶) 500g、5kg (粉末)

• 分包品(結晶)

0.5g×1,050 包入 1g×1,050 包入 0.5g×3,150 包入 1g×3,150 包入

**(2) ヘキサミンを投与中の患者(「相互作用」の項参照) 【組成・性状】

本品1g中に、日局 炭酸水素ナトリウム1gを含有する。 本品は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、特異な塩味 がある。

*(1) ナトリウム摂取制限を必要とする患者(高ナトリウム血症、浮腫、

妊娠高血圧症候群等) [ナトリウムの貯留増加により、症状が悪

【効能・効果】

(経口)

・下記疾患における制酸作用と症状の改善

胃・十二指腸潰瘍、胃炎(急・慢性胃炎、薬剤性胃炎を含む)、 上部消化管機能異常(神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸 過多症を含む)

- ・アシドーシスの改善、尿酸排泄の促進と痛風発作の予防 (含嗽・吸入)
- ・上気道炎の補助療法(粘液溶解)

【用法・用量】

炭酸水素ナトリウムとして、通常成人1日3~5gを数回に分割経 口投与する。

含嗽、吸入には1回量1~2%液100mLを1日数回用いる。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

- 1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
 - 1) 重篤な消化性潰瘍のある患者 [胃酸の二次的分泌 (リバウンド 現象)により症状が悪化するおそれがある。]
 - 2) 腎障害のある患者 [ナトリウムの貯留により症状が悪化するお それがある。]
 - 3) 心機能障害のある患者「ナトリウムの貯留により症状が悪化す るおそれがある。]
 - 4) 肺機能障害のある患者 [症状が悪化するおそれがある。]
 - 5) 低クロル性アルカローシス等の電解質失調の患者 [症状が悪化 するおそれがある。]

2. 相互作用

** (1) 併用禁忌 (併用しないこと)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ヘキサミン	本剤はヘキサミンの	ヘキサミンは酸性尿
(ヘキサミン静注液)	効果を減弱させるこ	中でホルムアルデヒ
	とがある。	ドとなり抗菌作用を
		発現するが、本剤は
		尿のpHを上昇させ
		ヘキサミンの効果を
		減弱させる。

(2) 併用注意(併用に注意すること)

本剤は制酸作用等を有しているので、他の薬剤の吸収・排泄にも 影響を与えることがある。

薬剤	名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
大量の牛乳カルシウム	上 製剤	milk-alkali syndrome (高カルシウム血症、 高窒素血症、アルカ ローシス等) があらわ れるおそれがあるの で、観察を十分に行い、 このような症状があら われた場合には投与を	機序:代謝性アルカローシスが持続することにより、尿細管でのカルシウム再吸収が増加する。 危険因子:高カルシウム血症、代謝性アルカローシス、腎機
		中止すること。	能障害のある患者



